

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成17年度 技術情報第3号(水稻海外飛来性害虫)の送付について

水稻海外飛来性害虫の飛来状況について、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成17年度 技術情報第3号

水稻海外飛来性害虫のトビイロウンカ、コブノメイガの飛来状況は、以下のとおりとなっているので注意の上、適切な防除に努める。

1. 対象病害虫 トビイロウンカ、コブノメイガ

2. 対象作物 普通期水稻

3. 飛来状況

6月11日の梅雨入り以降、6月第3半旬及び第5半旬、7月第2～3半旬と断続的に飛来が認められた。(別紙、参考資料参照)

4. 防除上注意すべき事項

(1) トビイロウンカ

ア 6月中旬以降に田植えを行い、ウンカ類に効果のある箱施薬剤を使用したほ場も、8月以降は薬の効果が切れ始めるので、ほ場の見回りを徹底し、発生状況の把握に努める。

イ トビイロウンカは、少ない飛来量でも増殖率が高く、坪枯れ等の被害を生じるので、今後の発生に十分注意し、飛来次世代成虫の短翅型雌成虫数が100株当たり20頭以上の場合は防除を行う。

(2) コブノメイガ

ア 6月中旬以降に田植えを行い、コブノメイガに効果のある箱施薬剤(フィロルまたはスピノサドを含む)を使用したほ場では、飛来世代に由来する第1世代幼虫の被害を箱施薬剤の効果等で低く抑えているが、止葉を含む上位3葉への被害は収量・品質に影響するため、今後の蛾の発生量が多い場合は、次世代幼虫を対象に防除を行う。

6月25日を起算日とした鹿児島市での次世代の発蛾最盛日は、7月25日頃と予測される。(別紙、発生予測図参照)

なお、7月第2～3半旬の飛来波については、飛来ピークが2回あり、これらが一緒になると思われるので、鹿児島市での次世代の発蛾ピークは8月10日頃と予測されるが、これに対する防除適期については、7月下旬に現地調査を行い、検討の上、早急な情報提供を予定している。

イ 粉剤・液剤等で防除を行う場合は、発蛾最盛日の7～10日後が防除適期である。

また、粒剤で防除を行う場合は、発蛾最盛日頃に、ほ場に水を溜めてから散布する。

(参考資料)

ウンカ類の予察灯誘殺状況及びコブノメイガほ場追い出し虫数(水稲ほ場100m²あたり)

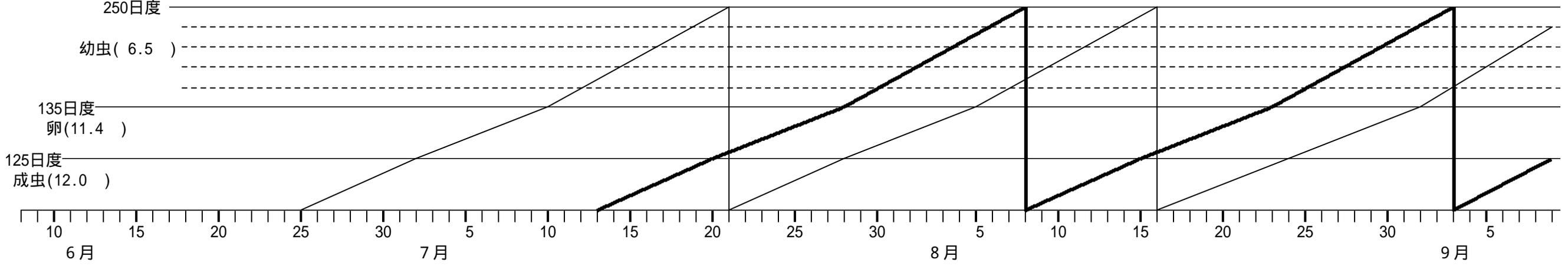
農業試験場(鹿児島市上福元町, 2005年)

日	60W電灯(水田)		水銀灯(畑)		追出し虫数(/100m ²)	
	(参考) セジ・ロウカ	トビ・イロウカ	(参考) セジ・ロウカ	トビ・イロウカ	コブノメイガ	
					早期	普通期
6/1	0	0	0	0	0	
2	0	0	0	0	0	
3	2	0	3	0	0	
4	0	0	1	0	0	
5	0	0	5	0	0	
6	1	0	2	0	0	
7	0	0	0	0	0	
8	0	0	0	0	0	
9	0	0	0	0	0	
10	0	0	1	0	0	
11	1	0	27	0	0	
12	32	0	335	0	6	
13	2	0	33	0	12	
14	0	0	0	0	6	
15	5	0	6	0	0	
16	0	0	9	0	1	
17	1	0	0	0	1	
18	0	0	5	0	7	
19	0	0	1	0	2	
20	0	0	5	0	0	
21	9	0	57	0	0	
22	156	0	945	1	6	
23	202	0	973	5	13	
24	76	1	360	4	17	
25	412	3	470	4	18	
26	8	0	96	1	18	
27	1	0	16	0	8	
28	2	0	26	0	0	
29	1	1	22	0	0	
30	0	0	12	1	0	
7/1	0	0	6	0	0	
2	0	0	3	0	0	
3	0	0	9	0	0	
4	1	0	34	0	0	
5	4	0	13	0	0	
6	100	1	76	0	8	
7	707	0	707	0	51	
8	3270	2	2930	1	57	
9	28	0	111	0	31	
10	29	0	151	1	4	
11	3	0	40	3	7	
12	69	1	237	2	12	
13	140	11	167	36	30	
14	47	8	79	8	28	
15	0	2	47	3	40	
16	8	0	45	1	7	5
17	1	1	23	0	2	2
18	0	0	18	0	1	1
19	8	0	13	0	調査終了	1
20						2

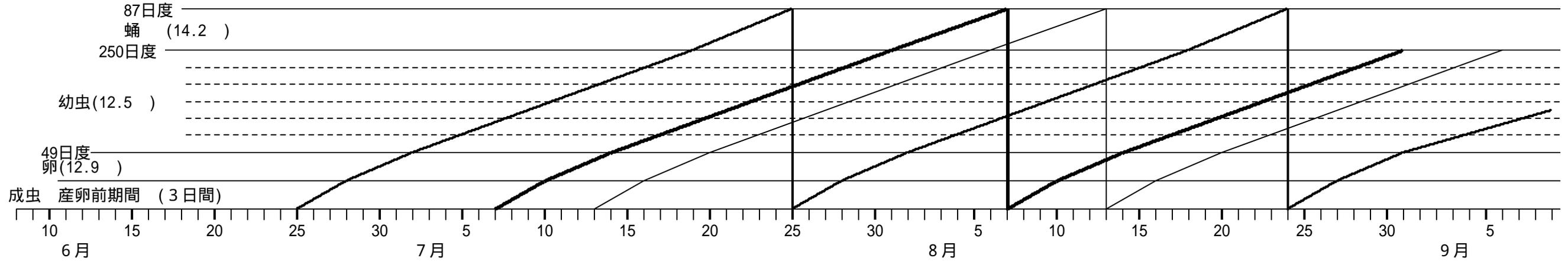
海外飛来性害虫の有効積算温度による発生経過予測 (鹿児島市を基準とする)

2005年 7月16日 作成
病害虫防除所

1. トビイロウンカ



2. コブノメイガ



(注) 気温の低い地域では予測より2~4日程度遅くなる。